

(4) 新木地区

ア. 景観特性・課題

i 住居系土地利用

- ・南北に大きく田園がひろがり、市街地を取り囲んでいます。
 - ・国道356号に沿って屋敷林や古木などの家並みが、かつての成田街道の歴史を偲ばせています。
 - ・土地区画整理事業の行われている駅の南側では、地区計画により良好な住環境の維持、保全及び緑豊かなうるおいのある景観形成が進められています。
 - ・新木野地区では、緑とオープンスペースが乏しいために密集して見えるなど田園との調和に欠けています。
 - ・市営住宅北原団地が、气象台記念公園に隣接して景観に配慮するとともに鳥をモチーフとした個性的なデザインで立地しています。

ii 商業系土地利用

- ・駅の南側に商業施設が立地し、今後の展開が期待されます。

iii 駅前の土地利用

- ・新木駅南口は、駅前広場を含めデザイン的にも整えられています。

iv その他

- ・利根川ゆうゆう公園は、利根川の河川敷をオープンスペースとして活用しており、市民体育館と一体的に利用されています。
- ・利根川沿いの田園地帯に福祉施設などの公共施設が多く立地し、景観的な配慮が求められます。

イ. 景観形成の方針

■新木地区景観形成のテーマ

田園と緑が豊かさゆとりを生むまち

■新木地区景観形成の方針

- i 利根川と田園景観を活かした親しみある景観づくり
- ii 成田街道のまちなみの形成と緑豊かな市街地の景観づくり
- iii 快適なまちなみの形成と緑豊かな市街地の景観づくり

i 利根川と田園景観を活かした親しみある景観づくり

○水辺景観形成エリア
(利根川)

- ・利根川の雄大な自然景観を活かした水辺の景観形成を図ります。
- 利根川ゆうゆう公園整備計画
- ・利根川に沿って、自転車あるいは歩いて楽しめる回遊軸をつくり、周辺施設との有機的な連携を図ります。

○緑の景観形成エリア
(田園景観、斜面林)

- ・市街地を縁どる斜面林と田園景観が一体となった緑の景観の保全、育成に努めます。緑の連続性がとぎれたところなどは緑の創出に努めます。

○農村集落地景観形成エリア
(新木北)

- ・農地などの環境の保全と学校教育施設の緑化を促進し、良好な集落地景観づくりを図ります。

○シンボル景観拠点
(市民体育館などの施設)

- ・周辺の水辺景観や田園景観に配慮し、環境になじみやすく人々が親しみやすいデザイン、建物外周部の緑化、開かれた空間づくりを図ります。

○^{おび}営み帯
(手賀沼ふれあいライン)

- ・田園景観を阻害せず、沿道の建物へのアプローチのしやすい景観形成を図ります。

ii 成田街道のまちなみを活かした景観づくり

○集落地景観を活かした
市街地景観形成エリア
(成田街道沿い)

・地域の特色をつくり出している屋敷林や歴史的資源などを保全、活用し、周辺環境の整備とあわせて、既存の集落と一体となったまちなみ景観の形成を図ります。

○営み帯^{おび}
(国道356号)

・沿道の屋敷林や歴史的なまちなみを保全し、周辺の環境整備とあわせて歴史を感じさせる景観の帯の形成を図ります。

iii 快適なまちなみの形成と緑豊かな市街地の景観づくり

○市街地景観形成エリア
(新木南)

・ゆとりとうるおいのある生活空間の創出と周辺の自然環境と調和した秩序あるまちなみ景観の形成を図ります。

○市街地景観形成エリア
(新木野、古戸)

・周辺の自然環境に配慮し、緑豊かなうるおいのある生活空間の創出を図ります。

○地区拠点
(新木駅周辺)

・地域の個性を活かした駅舎、駅前広場の整備を進め、まとまりのある拠点づくりを行います。

○架け橋帯^{おび}
(〔仮称〕利根川・大作新田線)

・特徴ある地形を活かし、田園景観の眺望の確保と連続した景観の帯の形成を図ります。

●新木地区景観形成方針図

